

国語科学習指導案

尾道市立高須小学校
指導者 土井 尚美

- 1 日 時 平成16年7月5日(月)～7月13日(火)
 - 2 学 年 第3学年2組 37名
 - 3 単元名 段落構成の整った作文を書こう
 - 4 単元について
- 単元観

(1) 本単元のねらい

本単元のねらいは、次の2つである。

- 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考える〔B(1)ウ〕
- 書こうとする事を中心を明確にしながら、段落と段落との続き方に注意して書く〔B(1)エ〕

自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えるとは、まず事柄ごとのまとまりを意識して区切りを考えること、そして徐々に段落や段落相互の関係について考え自分の考えを明確にするために工夫することであるととらえている。

段落と段落との続き方に注意して書くとは、調べた事やそれによって深まった自分の考えなど、書こうとする事を中心となる部分が明確になるように叙述することであるととらえている。

本単元でねらう子どもの姿は、次に述べる四つのことができるようになることである。

事柄ごとのまとまりを意識して、区切りを考えて書く。

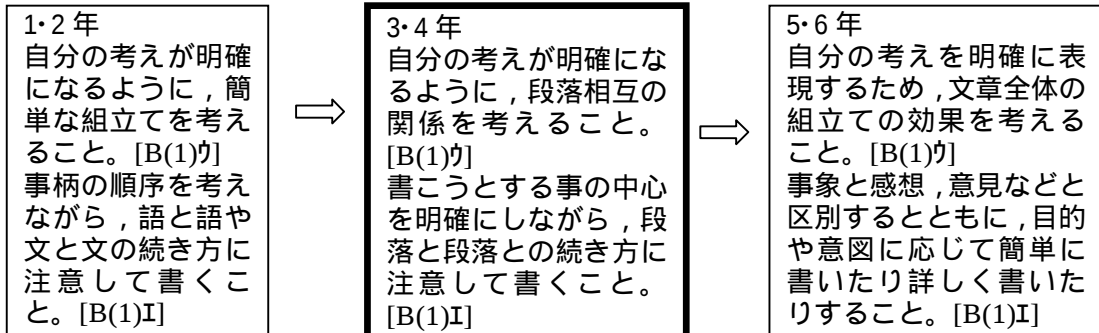
(一つの段落に一つの内容を書く。)

順序にしたがって尾括型の文章を書く。[尾括型：主題を結末部に置くもの]

と の視点で文章のよいところを見付ける。

と の視点と表記上の間違いなどを正す。

(2) 学習指導要領の内容の系統



(3) 本単元の構成・内容・価値

本単元の構成

本単元では、学習の最初に、段落構成の整った説明文を読む活動を位置づけて児童にまとまりや段落相互の関係を考えさせる。そして、児童が文章を書く過程において、読む活動で培った視点から構成や推敲をすることを取り入れた指導を行う。

本単元の内容

段落構成の整った説明文を読み、中心となる語や文と考えを明確に書くための文章構成を学習する。そこで培ったことを自分の文章に生かして作文を書く。

本単元の価値

第3学年及び第4学年の「書くこと」の指導においては、「段落相互の関係などを工夫して文章を書く」能力の育成が主なねらいである。小学校学習指導要領解説国語編には「段落相互の関係などを工夫して文章を書く」ことは、児童の実態を考慮して、「まず事柄ごとに書く内容を整理したり簡単な組立てを考えたり」し、「徐々に段落を考えて書いたり、段落と段落との続き方に注意して書いたり」できるように指導することであると述べられている。

書くことの学習の最初に、段落構成の整った説明文を読む活動を位置づけて児童にまとまりや段落相互の関係を考えさせ、文章を書く過程において読む活動で培ったことを生かす指導を行うことで、児童が考えを明確に書く力を高めることができると考える。

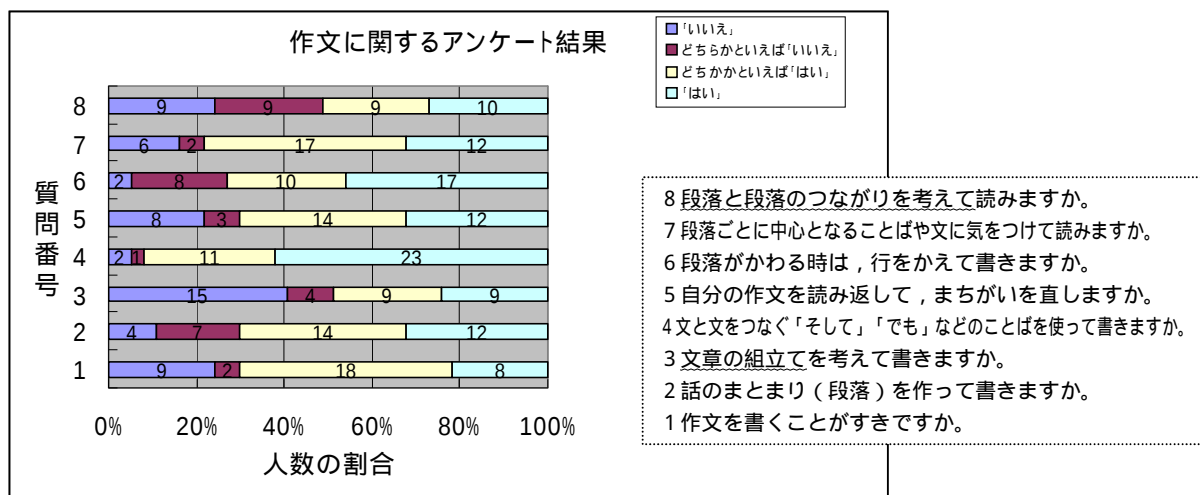
○児童観

既習事項及びその定着状況

(1) 学習内容面

1 学期中旬に「知ってもらおう、自分のこと」という教科書単元で、紹介の中心となる内容を明確にしながら、段落相互の関係に注意して書くことの学習をしている。また、「まとまりごとに内容をとらえながら」という教科書単元で、中心となる語や文をとらえてまとまりごとに書かれていることを正しく読む学習をしている。

6 / 8 に実施した事前アンケートで次のような結果が得られた。



事前作文からは、次の結果が得られた。

一段落一内容で書けている児童	5 人 (14%)
一段落一内容で書けていない児童	32 人 (86%)

段落分け	あり	内容ごとに適切に改行	5 人 (14%)
		適切ではないが、改行	6 人 (16%)
		1 文ずつ改行	3 人 (8%)
	なし		23 人 (62%)

一段落一内容及び段落分け	
適切	5 人 (14%)
適切でない	32 人 (86%)

アンケートの質問番号2「話のまとまりを作って書きますか。」について、「はい」「どちらかといえば『はい』」と答えた児童は約70%いた。また質問番号6「段落が変わる時は、行をかえて書きますか。」について、「はい」「どちらかといえば『はい』」と答えた児童は73%いた。しかし事前作文を分析してみると、一段落一内容で改行して書けている児童は14%であり、まとまりのある自分の考えを文章に書くこと・組立てを考えて書くことのできている児童はいない。また、自分の作文を読み返して修正している児童は一人で、読点「、」を書き加えていた。作文の内容を分析すると、自分のしたことをした順番に書けてはいるものの思いつくままに羅列して書いているものが多く、まとまりを意識した文章になっていない。児童の意識と実際の力には差があるといえる。

(2) 学習方法・学習活動面

書くことの学習の最初に、段落構成の整った説明文を読む活動を位置付けて児童にまとまりや段落相互の関係を考えさせる学習は初めてである。

○指導観 <本校の本年度の研究主題「基礎・基本の定着を図る多様な指導方法の工夫」との関連>

(1) 基礎・基本の確実な定着のための**全体的な工夫**

- ・まとまりや段落相互の関係を考えさせるために、学習の最初に段落構成の整った説明文を読む活動を位置づける。
- ・読む活動で培った視点を、書く過程に生かすためにワークシートを作成し活用する。
- ・段落相互の関係を理解しやすくするために、作文の長さを400字程度とする。
- ・材料集めの広がりを持たせたり、相互評価をしたりするために、作文のテーマは児童に共通の身近なことをとりあげる。

(2) 基礎・基本の確実な定着のための**個に応じた工夫**

- ・まとまりや段落相互の関係を考えにくい児童のために、個別に言葉かけをしたり、他の児童の発表を手がかりにして考えるようにアドバイスしたりする。

5 単元の目標・評価規準

観 点	単元の目標	評価規準	評価方法
ア国語への関心・意欲・態度	自分の経験や身の回りの出来事について関心をもち、自分の考えが相手によく伝わるように作文に表そうとする。	自分の経験や身の回りの出来事について関心をもち、自分の考えが相手によく伝わるように作文に表そうとしている。	観察
ウ書く能力	考えが明確になるように、段落相互の関係を工夫して書くことができる。 自分の書いた文章のよいところを見つけたり、間違いなどを正したりすることができる。	構想をもとにして、段落相互の関係を考えて文章を書いている。 自分の書いた文章のよいところを見つけたり、間違いなどを正したりしている。	作品 ワークシート
エ読む能力	中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むことができる。	改行段落の意味、段落ごとの関係のとらえ方を文章に即して考えている。	ワークシート
オ言語に関する知識・理解・技能	段落の始めは行を改めて書くことができる。	段落の始めは行を改めて書いている。	作品

6 指導と評価の計画（全6時間）

次	学習内容	評 価					
		関 意 態	書	読	言	評価規準	評価方法
1 (2)	単元全体の学習の流れを知るとともに、段落構成の整った説明文を読み、段落について知る。					ワークシートに、段落の始めは1マス下げることと一段落に1内容書くというきまりを理解している。	ワークシート
	段落構成の整った説明文を読み、まとまりや段落相互の関係を考える。					「はじめ」「なか」「まとめ」にあう文章を選んだり、書いたりしている。	ワークシート
2 (2)	題材を確認し、作文を書くための材料集めをする。	○				尾括型の文章が書けるようなキーワードを書いている。	ワークシート 観察

	集めた材料をもとに，作文を書く。				。	キーワード表をもとに，順序にしたがって，尾括型の文章を書いている。	作品
3 (2)	作文チェックカードをもとに作文を推敲し，清書する。					作文チェックカードをもとに観点にそって作文を推敲し，清書している。	作品
	友だちの作文を読み，よいところを見つける。					作文チェックカードをもとに観点にそって，友だちの作文のよいところを見つけている。	ワークシート

(1) 本時の目標

(3) 學習展開

5